

一目千本桜の生みの親である高山開治郎氏と柴田農林高等学校（以下、柴農高）との出会いは昭和2年、氏が2回目の桜植樹の時でした。

柴農高沿革史には次のように記されています。「昭和六年十一月農林産物品評会各学年対抗『優勝楯』並『開拓心田』額、各賞掲大河原町出身（在東京）者高山開治郎氏ヨリ寄贈セラル」

氏はその農業品評会（写真①）や学校を訪れての講話など協力を惜しまなかったようです。沿革史の「開拓心田」はあの二宮金次郎の言葉ですが、その頃、東北地方では度々コメが凶作となり、氏もどかしく感じていたといわれています。これは推察ですが生徒達には農業技術だけでなく人間の心も田畑のように耕さないと、新しい芽は育たないということとを学んでほしかったのだと思います。

毎年3月になると柴農高では恒例の桜の天狗菓枝剪除奉仕作業（写真②）が行われ、作業は実習教科としても最適でした。筆者も教師時代に感じたのは3年間のうち人生でたった2回しかない作業実習でしたが生徒の心の中に充実した時間として残ったようです。昔は木登りが得意な生徒がいて、「サル、サル」と言われながらも喜んで枝を切っていました。ある卒業生は結婚する相手



出典：大河原町さくらの会5周年記念誌 桜に魅せられて(H14) みやぎの先人集 未来への架け橋 高山開治郎(H25)

第36回 開治郎の願いを推察す その2 柴田農林高等学校編



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

一目千本桜の歴史は柴農高の歴史でもあったと言えます。しかし、残念ながら柴農高は令和6年度をもって百十六年の長き歴史に幕を閉じてしまいます。先人の偉業を再度かみしめながら町花「桜」のことを深掘りしていきたいものです。

桜並木を自慢げに見せて歩いたとか。また、竹と鎌を使う病枝（写真③）の採り方などは誰の記憶の中にもよく残っていると言います。白石市などでは同窓生によってこの作業が脈々と受け継がれています。



Mayor's column さくら並木 -町長コラム-

『無限の可能性を持つ君たちへ』、大中の『立志式』に思う
～頑張る気力の源は、感謝の気持ちに他ならない～

大河原町長 齋 清志

立春の2月4日に、大河原中学校の伝統行事『第61回立志式』が開催されました。2学年生手作りの心のこもった立派な式典でした。『立志式』は、日本で古くから行われていた『元服』にあたる儀式で、一人の人として志を立て人生の指針と強い意志を表明し、前向きに自己の将来を設計しようとする力を培う式とされています。

14歳の春に自分としっかりと向き合いながら、希望を持って将来を考へることは大事なことでと思います。また、自分を知らうとする姿勢は、自らを大切にすることにもつながって、立志生を大きく成長させることでしょう。そして、『頑張る気力の源は、感謝の気持ちに他ならない』ことを、心でしっかり受け止めて欲しいと願っています。

さて、元日に能登半島地震が発災しました。大変厳しく悲しい現実が今も続いています。現地の同年代の中学生は、集団で避難して生活（勉強）する人と、家族と共に残る決心をした人と、それぞれの判断となりました。どちらを選択しても辛い環境であるにも関わらず、連日の報道では、支援や応援への感謝の言葉が添えられていて大変切なさが募る思いでした。『感謝の気持ちが頑張る気

力につながっている』大変立派な姿で、心が熱くなるのを覚えたところです。

一昨年の話になりますが、今年の立志生が1学年生の時に『志教育講演会』の講師をつとめる機会をいただきました。『無限の可能性を持つ君たちへ』と題して、私の実体験を踏まえながら、あの時も『感謝の気持ちを頑張る気力につなげて欲しい』と話しました。その講演会の後に、私の手元に届いた御礼や感謝と将来への決意を綴った感想文を今も大切にしています。『立志式』の前に読み返しながら、書かれた素直な思いに改めて勇気付けられて、頑張る気力が湧き上がるのを感じながら、私こそ感謝の気持ちで一杯になりました。

一方残念ながら、誰の人生にあっても頑張っても頑張っても試練や失敗は付きものです。しかし、一時の苦しみやしばしの傷みは、大きく成長するための屈みであり、やがて羽ばたくための踏んばりなのだ信じることが大切です。立志生の可能性は無限です。希望はいくら高めても過ぎることはありません。能登の中学生にとっても、立志生一人ひとりにとっても常に希望は心の太陽なのです。

明治に生まれ、昭和初期に活躍し



▲立志式で感謝の手紙を朗読する代表生徒

た倫理研究所の創設者である『丸山敏雄先生』が解いています。『うまく行かぬから望みを失うのではない。望みを失うから望みを失うのではない。また、都合が良いから希望を持つのではない。一生に二度と出くわすことの出来ない仕事だから希望を持つのである（抜粋）』と。

感動の『立志式』も終わりに近づき、立志生代表のご両親への感謝の手紙の朗読がありました。改めて、『頑張る気力の源は、感謝の気持ちに他ならない』と確信しながら、立志生の輝かしい未来に対し、心からのエールを送った次第です。

（2月16日記）

材料 1人分

- ・チンゲン菜……………1株
- ・トマト……………1/4個
- ・キムチの素(市販)……………小さじ1杯

作り方

- ①チンゲン菜は根元をたてに4～6つに割り、水でよく洗って葉と軸に切り分ける。たっぷりの湯で軟らかく茹でて、冷まして絞る。
- ②トマトは乱切りにする。
- ③①と②をキムチの素であえる。



写真は1人分

【ひとり分栄養価】
エネルギー：22kcal 塩分：0.6g

調理担当ヘルスメイトより
野菜料理をプラスしたい時に手軽に作れる一品です。
大木 薫(稗田区)



チンゲン菜のキムチサラダ

令和5年度大河原町食育スローガン
「わが家(町)の食を伝えよう」